

「一月は行き、二月は逃げる」と言われています。その通り今年も気がつけばもう三月です。日本の名で「弥生」。非常に柔らかな響きのある美しい月の名前ですね。今でこそ「やよい」と発音されていますが、本当の漢字の読みは「いやおい」。これが音声化されて「やよい」となったそうです。意味としては「草々がますます生い茂ること」だそうです。しかし春の暖かい風に包まれた午後に最適な名前かと思います。

さて三月と言えば旅立ちの月。卒園式や卒業式が日本のあちらこちらで行われます。そして私たちの幼稚園は三月十一日が卒園式です。第9回目となりました。園児たちは駐在員家庭の子どもたちがほとんどですので、なかなかこの幼稚園を卒園することができません。通園中に帰国になったり、横移動で他の国へ引っ越ししたりすることが多いからです。今年で119人目の卒園生が巣立っていきますが、入園して卒園した園児たちは全体の63%にしかありません。そして無事に3年間の保育を終えた園児は延べ10人しかおらず、卒園生の8.4%でしかありません。初めて3年保育の卒園生がでたのが、幼稚園創立5年目の平成16年でした。この年、一気に4人の3年保育卒園生が巣立ち、色々な想いが去来し、卒園式中に涙があふれて仕方ありませんでした。今でもそうですが、卒園式の練習が始まると、どうしてもそれぞれの園児が初めてこの幼稚園にやってきたことを思い出します。日本で2年間の保育を終え、立派な年長さんとして入園してきた子どももいます。また初めての集団生活に戸惑いを隠せない年少児として入園してきた子どももいます。兄弟に付き添い、乳児期に幼稚園に初めて顔を出した子どももいます。それぞれの初対面の日の思い出が、どうしても卒園式の最中に思い出され、胸中を複雑にします。ここまで立派に頑張ってくれたという思い、そして巣立っていく姿の逞しさに感動してしまいます。一人の人として、そして大人としてこのような子どもたちとかかわりを持った時間を過ごせた幸せに、保護者の皆さんへ深い感謝を込めて毎年卒園式を迎えています。意外とお気づきにならない方が多いのですが、この「卒園式」と言う行事、いや式典は実は人生で初めて経験する自分の力で行うもので、そして二度と再びない式典なのです。彼らは卒園後、もちろん小学校に入学しますが、それ以降、彼らの節目の式典は「卒業式」となり「学位授与式」となっていきます。最初に経験する、練習をして臨むことができる式典、私はこの幼稚園で最も大切なこととして毎年この時期を迎えています。そのため、卒園式までの練習は生半可なものではありません。毎年3学期のメインはこの卒園式の練習となります。私たちの幼稚園は小さい幼稚園なので、卒園式当日も年少、年中組のお友達も参加するようにしています。そのため、卒園式の練習も卒園生と同じように行います。

まず1月中旬から卒園式とは何かを園児たちに話し始めます。「一生で初めて自分で行う式典であること」「一生に一度だけの式典であること」「今まで幼稚園に通わせてくれたお父さんお母さんに自分の成長を見せる場であること」「幼稚園で学んだすべてをお披露目する場であること」などをお話します。そして卒園生は自分のため、年少、年中組は気持ちよく卒園生を送り出すために、立派な式典になるように努力をする必要があるとお話をします。そして「練習が厳しくても最後まで頑張れば、必ずみんな立派にできる。練習は絶対に嘘をつかない。スポーツでも、字を書くことも練習をどれだけ正しくやってきたが、上手になるかどうかの分かれ目になる」と諭します。そしてもう一度、話を聞く態度をきちんとするように練習します。既に昨年の春から時間をかけて練習してきているので、園児たちは要領を得ています。それでも先生の朝会での話や工作、折り紙などの説明を「両耳と両目に力を入れて聞く」ことを練習します。そして2月に入れば正しい立礼のやり方、そして修了証書の受け取り方なども練習します。この練習を卒園生が行っている間、年少、年中組のお友達もいすにじっと座っていなければなりません。何度か練習を繰り返し、卒園生の間違いが減ってきた頃になると、年少、年中児の中で練習の最中に体を動かす子どもはほとんどいなくなり、卒園生と同じように緊張感を持って、練習に励んでくれるようになります。そして2月中旬になると卒園式の進行通りの練習が始まります。玄関から並んで教室に入り、決まったいすに着席します。そして一人ずつ名前を呼ばれ修了証書を受け取ります。名前を呼ばれると立ち上がり、元気に返事をします。そして園長先生の前にゆっくりと進み、両手

で修了証書を受け取ります。そして自分のお父さん、お母さんに向かってありがとうございますと言います。そしてまたゆっくりと自分の席にもどります。歩き方、立礼、そして着席などのすべての動作にメリハリをつけて、ゆっくりとそして威厳を持って式が進行するように練習します。

さて当日、立派ないでたちで登園してきた卒園生たちは興奮を隠せないのですが、それ以上に卒園式を立派に行おうという気概が伝わるほど気持ちが入っています。そして入場、証書授与、祝辞、記念品贈呈などのプログラムをこなし、みんなで歌を歌ってお開きになります。退場時にはPTAからいただいた花を持って居室から出て行きます。玄関に戻った卒園児たちの表情は、大きなことを一杯練習してやり遂げた満足感が漂っています。今まで一度も見せたことのないような笑顔、笑顔、そして笑顔。「この子たちにこんな素晴らしい笑顔があるんだ」とこちらまで感動する笑顔です。「みんな、良くできたね」とねぎらいの言葉も詰まりがちになってしまいます。

毎年の祝辞で私は卒園生たちにこのような言葉を贈っています。

「(漢字の人という文字を見せながら) これは人という漢字です。この漢字は二本足で立っていることを表しています。そしてもう一つ、これは支えあっている姿を表していると思います。なぜなら人は一人では生きていくことできないからなのです。みんなが幼稚園に楽しく通うことができたのも、みんなのお父さん、お母さんが、この幼稚園に通うことを選んでくれたからです。毎日お友だちと楽しく遊べたのも、お弁当を美味しく食べたのも、お母さんが頑張ってくれたからです。今、みんなはまだ小さな力でしか他の人を支えることができません。そしてそれ以上にたくさんの人たちから大きな力で支えられています。これから大きくなって大きな力で他の人を支えられるようになってください。そして今はまだ意味がわからなくても良いのですが、忘れないで欲しい言葉を送ります『一人はみんなのため、みんなは一人のため』。この言葉をしっかり覚えておいてください。そして威厳があって美しい、堂々とした立派な人間になってください。」

今年もどこの幼稚園でも保育園でも、卒園式で予想もしなかった感動のドラマがあると思います。巣立ちであると共に別れでもある卒園式。世界中の園児の皆さん、そして保育士の皆さん、それぞれの想いを胸に記憶に残る卒園式を！

《つづく》